

全日本スーパーフォーミュラ第2戦。マシン不調を乗り越え意地を見せた Juju と、期待に応えたピットワーク！



結成2年目を迎えた『HAZAMA ANDO Triple Tree Racing』は、4月5日（日）、2026年全日本スーパーフォーミュラ選手権・第2戦に参戦いたしました。今大会は土・日連戦のダブルヘッダーで、初日の悪天候とは一転し、ドライコンディションでの第2戦を迎えました。HAZAMA ANDO Triple Tree Racing の10号車をドライブする Juju は、全24台が2組に分かれて争われる予選のA組に出走し、1分33秒854で12位に終わりました。「このコンディションを考え、ユーズドタイヤで予選に挑んだのですが予想外にコンディションの変化が早く、作戦が失敗に終わりました。しかし決勝に向けてはニュータイヤが温存できたわけですし、攻めのレースを戦います」と野田英樹監督はレース前に語ってくれました。第2戦の決勝グリッドは24番手からのスタートとなりました。

第2戦のスタートは午後2時45分。気温22℃、路面温度は28℃というコンディションとなりました。今回はドライ路面でのレースなので、トップが10周を過ぎた段階でピットウィンドウがオープンし、レース終了までに1回のタイヤ交換が義務づけられています。

Triple Tree Racing





気温 22℃、路面温度 28℃というコンディションの中、レースはフォーメーションラップでストールする車両が出たり、スタート直後の S 字コーナーでマルチアクシデントが発生するという荒れ模様の序盤となりました。

好スタートを決めた Juju は、目の前のアクシデントを冷静にかわし、一時は 4 台をパスして 20 番手まで浮上し、1 周目のコントロールラインは 22 番手で通過しました。その後 1 台をパスしたところでセーフティーカーが出され、Juju のハンドリングトラブルを聞いた野田英樹監督は、このタイミングですかさずタイヤ交換を指示しました。ピットに飛び込む Juju のマシンはメカニックの迅速な作業でタイヤ交換が行なわれ、Juju はポジションを失うことなくレースに復帰。無線で「完璧！みんなありがとう！」と口にした Juju は、再び気を取り直して 37 週の戦いに挑みました。

7 周目にリスタートしたレースはその後、大きなアクシデントもなく進み、Juju はライバルたちのタイヤ交換のタイミングで着実にポジションを上げ続けました。一時は 13 番手まで浮上しましたが、期待されたセーフティーカーが出されることはなく、レース終盤にタイヤ交換の義務を果たすべく、32 周終了時点でピットに飛び込みました。

残り 5 周をフルプッシュで攻め、セクターベストを次々更新。最後の最後まで攻めの姿勢を崩さず、1 分 32 秒 271 というレース中のベストラップも、まさに最終ラップにマークしました。「ありがとうございました」と無線でピットクルーに感謝の意を伝え、厳しかったレースのチェッカーを受けました。

Rd	サーキット	周回数	天気	気温	路温	予選	決勝
2	もてぎ	37	曇り	22℃	28℃	24	22

※天気、気温および路面は決勝スタート時

◆ドライバー Juju のコメント

「今週末は走り出しからトラブルを抱えていましたが、今日は特にそれがひどく、悔しいレースになってしまいました。ウェット路面では余り気にならなかったのですが、ドライ路面では過去に経験がないほどスタート直後から全然フロントタイヤが発動せず、まったくペースがない状況でした。次のレースまでに原因を解明しないといけません。セーフティーカーが出された時にタイヤ交換に出たのですが、10 周してもグリップ感が無く、異常な状態でした。勝負権が無いのはわかっていたのですが、ダラダラ走りたいはなかったので、最後の最後まで自分なりにこの状況の中で精いっぱいプッシュをして、ベストラップはまずまずのレベルを出せたと思いますし、そこは良かったです。正直、あまり楽しいレースではなかったので、次はこの問題を解決して、楽しいレースをしたいなと思います」

◆監督 野田英樹のコメント

Triple Tree Racing





「苦しいレースでしたね。読みを外したというか、予選でもやったことが裏目に出て、スタート前にグリッド上でセットを変更したのも逆方向にいつてしまい、ドライバーには申し訳ないことをしてしまったなという気持ちです。セーフティーカーが出たときにタイヤ交換に出たのは、失うものは何も無かったですし、少しでも距離を走っていない新しいタイヤを履かせて、最後の最後まで引っ張る中で、どこかでもう一度セーフティーカーが出てくればタイヤ交換義務は消化できるので、大きくポジションを上げるためには他と違った戦略を取るしかないと思いました。残念ながらセーフティーカーは出ませんでした。ハンドリングが相当悪かった中で、ドライバーは頑張ってタイヤをいたわりながらできる限り引っ張って走っていたから、最後にタイヤ交換をした後は、もうタイヤのライフを考える必要もないので、ベストラップはアンダーだろうが、それなりにプッシュしたドライバーの努力ですね。ただ、その走りをレース中にずっとやっていたらタイヤは持たなかったはずだから、今日は我慢、我慢のレースを強いられていたと思います。」

とにかく根本的なマシンの問題を次のレースまでに解決しなければなりません。オートポリスはもてぎとは全く逆のキャラクターのサーキットですし、タイヤにも厳しいサーキットですから、しっかりと対策を練らないといけません。今回のレースは金曜日からずっとフロントの問題解決のためのセット変更ばかりをやっていてレースを外してしまったので、その原因を突き詰めるのが、今の一番の大きな課題だと思っています」

◆代表 村司宏樹のコメント

「今日は天候も良くなり、朝の渋滞をものともせず多くのスポンサーの皆様が応援に来てくださったことに感謝しています。レース結果は正直悔しかったです、レース中2度のタイヤ交換は素晴らしく、メカニックたちのシーズンオフの準備が成果として出てきたと思っています。ドライバーのパフォーマンスをフルに発揮できるマシンを作り上げるべく、明日からチームは第3戦オートポリスに向けて前を向いて準備を始めたいと思います」



◆本件に関する問い合わせ先◆

Triple Tree Racing チーム代表 村司宏樹

e-mail: muraji@3tree.jp / mobile :080-3624-3989

Triple Tree Racing

